

CT検査前の不必要な絶飲食をなくそう
～より良い検査を目指して～



- 菊池 健司1) 藤岡 弘之1) 桧垣 徹次1)
河内 雅子1) 山田 久美子1) 大槻 みどり1)
仙波 芳樹2)

- 1)喜多医師会病院 放射線部
2)喜多医師会病院 放射線科

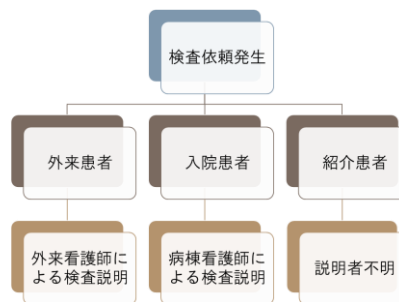
【背景】

画像診断において食事制限の必要な検査、無い検査があり、当院では一般的な食事制限を行っている。しかし稀ではあるが、造影検査などの水分補給が必要な検査において、絶飲食で検査に来られる患者様が見受けられた。そこで、この危険な行為を無くし、安全に検査を行うと共に、患者様のQOLの向上を目指し、今回このテーマで活動する事とした。

Fig.1 絶食による弊害



Fig.2 検査依頼のフローチャート



【アンケート調査の実施】

対象

- 入院……………23名
外来……………65名
紹介……………28名 計130名

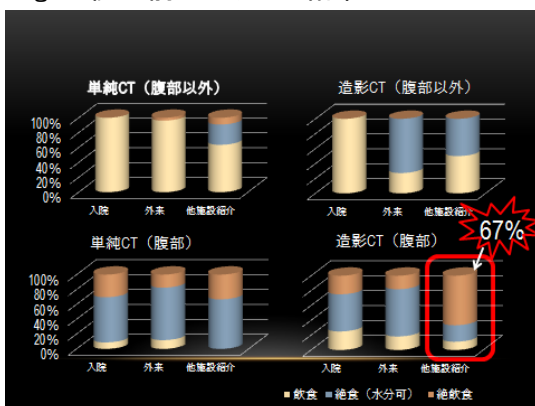
(胃カメラなどの内視鏡検査を同日に実施する患者様、また認知症や寝たきりなどで聴取困難な患者様は対象外)

【検査前飲食アンケート結果】

紹介の腹部造影CTで、67%の患者様が絶飲食で来院している。



Fig.3 検査前アンケート結果



検査前飲食アンケート結果

- スタッフの説明不足。
- 患者様の理解不足。

↓

- 説明を受けたが内容を忘れた。
- 食事がだめだからあえて水分も摂らなかった。
- ふだんから朝は何も食べない。
- 水分を摂らない様に説明された。

【目的】

紹介患者様のCT検査における unnecessary 絶飲食を無くし、QOLを向上させ、安全で安心な検査を行う。

【方法】

1. 食事制限マニュアルの見直しをして、簡素化する。
2. 案内用紙を作成する。
3. 確かな伝達やスタッフへの意識づけの為、口頭から書面にする。

方法	実施策	効果性	実現性	持続性	重要性	経費	実施
食事制限マニュアルの簡素化	絶飲食のマニュアルを廃止にする	○	○	○	○	18	☆
	新しいマニュアルを作成する	○	○	○	○	20	☆
	マニュアル表を作成する	○	○	○	○	16	☆
	マニュアルを簡潔化する	○	○	○	○	20	☆
案内用紙の作成	分かり易い内容にする	○	○	○	○	20	☆
	絶飲食の案内用紙を作成する	○	○	○	○	18	☆
	スタッフの使い易い案内用紙にする	○	○	○	○	20	☆
	絶飲食スタッフの使い易い案内用紙にする	○	○	○	○	20	☆
確かな伝達	案内用紙を患者さんに渡す	○	○	○	○	18	☆
	口頭から書面にする	○	○	○	○	20	☆
スタッフへの意識づけをする	案内用紙を患者さんに渡す	○	○	○	○	20	☆
絶飲食の順番の取り方を決める	スタッフに説明する	○	○	○	○	18	☆
	ファックス使用マニュアルを作成する	○	○	○	○	20	☆
	検査予約時に案内用紙をファックスする	○	○	○	○	20	☆

Fig.4 方法

【対策後のアンケート調査の実施】

対象 他施設紹介・・・33名

【結果】

絶飲食で来られた患者様が対策前は32%であったものが、対策後15%まで減少する。造影検査における絶飲食の割合は、対策前55%から対策後0%となる。

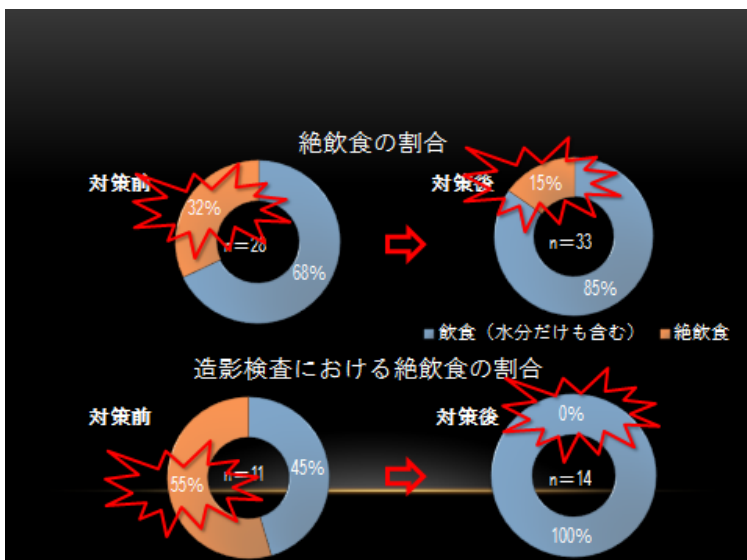


Fig.5 結果1

造影剤による副作用の発現率は、対策後1例にじんましんが発症する。しかし、対策前でも使用していないイオン性造影剤で発症しているので今回の活動では検証できなかった。

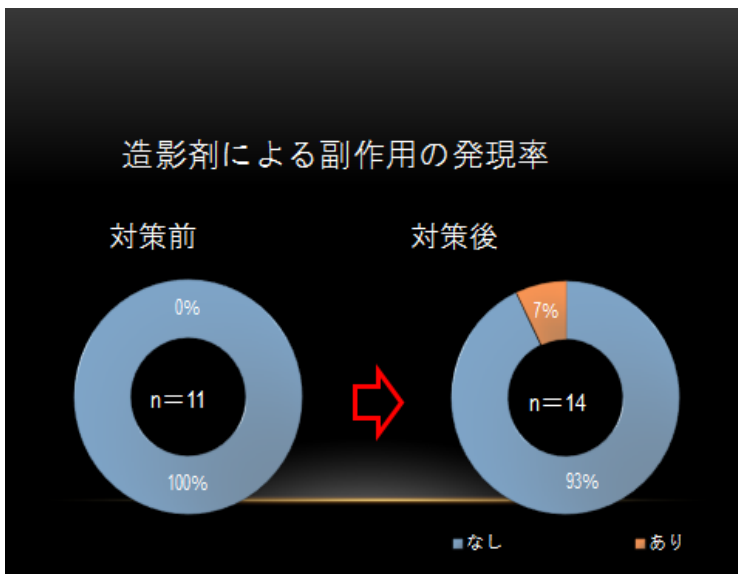


Fig.6 結果2

10時間以上絶食とした患がいなくなり、対策前は平均5時間57分であった空腹時間が、対策後2時間47分となり、半分以下に短縮する事ができた。

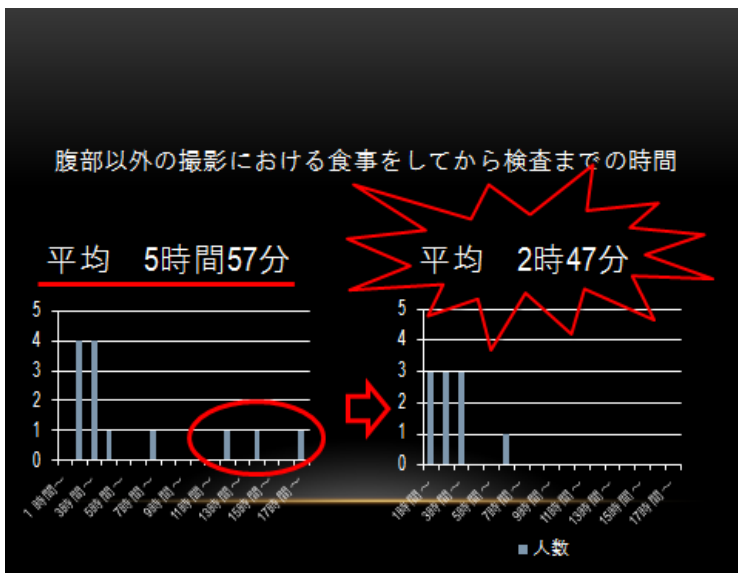


Fig.7 結果3

【考察】

案内用紙を送る事で開業医スタッフとの検査知識の共有ができ、それが患者様に渡された事で説明不足の解消につながったと考えられる。

【結語】

紹介患者様における造影検査前の絶飲食率が55%→0%となり、目標が達成できた。腹部以外の検査で空腹時間の短縮ができ、患者様のQOLが向上した。よって、水分補給が徹底された事で検査の安全性の向上が期待でき、今まで以上に患者様の立場に立った検査が行える様になった。